



社会福祉法人おおぞら会 広報紙

SSKP

はばただより

vol.147



ある日のkids! ~公園編~

元気いっぱい動ける公園は、みんな大好き!途中で寄ったコンビニでおやつを買って季節を感じて歩けば、笑顔があふれます!



お片付けも
するよ!

ある日のkids! ~おへや編~

kidsの部屋で自由に過ごす時間は、好きなおもちゃを並べてみたり、飛んだり跳ねたり!ところ狭しとはこのことですね。

あすはKids (放課後デイサービス事業)

新年度になり、卒業と入学を経て、あすはKidsも新しい顔ぶれとなりました。「この子は何に興味があるのかな?」と手探りの毎日ですが、5月から新型コロナウイルスが「5類感染症」に位置付けられ、スポーツ観戦、コンサート鑑賞等の声だしOK、美術館での入場規制緩和等徐々に通常の生活を取り戻してきているなど感じています。

あすはKidsでは感染対策に留意しつつも活動の幅を広げ、子どもたちにより楽しく充実した放課後や休日を過ごしてもらえるよう支援していきます。

(支援員 渡邊智博)

厳しい局面の中だからこそ、丁寧な歩みを…

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

いつもおおぞら会の活動に関心を寄せて下さり、様々な形で応援をして下さっている皆様、本当にありがとうございます。

おおぞら会が社会福祉法人として事業を開始して以来、本年4月に25年を経過しました。山あり、川ありの日々ですが、利用者の皆さんの笑顔と、多くの皆様からの物心両面の応援に支えられつつ、一つ一つの課題を乗り越えて、ここまでたどり着くことが出来ました。心から感謝申し上げます。

利用して下さる方々がおられて、その利用者を家庭で支えて下さっているご家族がおられて、そして関わって下さる地域の方々や、公私の機関・団体の皆様、そして利用者の方々のそばに居ながら、その生活背景の全体を視野に入れつつ、日々必要な支援実践に取り組んでいる職員たちが居ます。私たちおおぞら会は、上記の誰が欠けてもその実践は成り立ちません。職員の皆さんにもこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、コロナ禍が続く中、普段以上に多くのご支援を受けながらも、残念ながらおおぞら会は創業以来の財政危機に直面していることを認めざるを得ません。昨年4月から、新しく提案された「中期経営計画」に基づいて、サービスの質のいっそうの向上を意識し、同時に「法人経営の立て直し」にまい進しています。2026年3月末を目標に、利用者の皆さんから、これまで以上に選ばれる法人、利用する価値のあるサービス提供を続ける法人と評価してもらえるよう、日々誠実に実践に取り組み、同時に安定経営の基調に持ち込むべく、皆一丸となって努力を続けています。この私たち努力に、これまでと変わらぬご期待を寄せて下さいますよう、お願いいたします。その努力の成果は見え始めています。何とぞご期待下さい。

さて、先の評議員会および理事会にて、もう一期2年間、理事長職を続けるようにとの決定を受けました。覚悟を決めて頑張りたいと思います。皆様、何とぞ変わらぬお力添えを賜りますよう、伏してお願い申し上げます。



ある日のあすはkids
～番外編～
もっと遊ぼう!!

野ざきの家 【小規模多機能型居宅介護】

野ざきの家では、看護師の資格を持った職員を配置しています。高齢で在宅生活をしている利用者にとって身近に健康を見守ることのできる専門職がいることは安心であり、野ざきを家の強みとも言えます。今回は、その看護師目線で日々感じることをお話できればと思います。

野ざきの家が大切にしていることは「利用者の皆さんが自分らしい生活を送ることができるよう伴走し、必要な支援をすること」です。利用者の皆さんは、人生の経験や貴重な知識を持っており、貴重な体験を話してくれたりしています。十人十色でそれぞれ、背景や人生の物語が異なることを念頭に、個々のニーズに合わせた心のこもったケアを提供すること、適切な医療を受けられることに注力しています。

身体的なケアはもちろん、心のケアも同じくらい重要です。高齢者施設で働く看護師の視点で私が大切にしている事は「温かいケアと尊厳の保持」です。

たとえば、周囲から見ると介護が必要な状態であると感じる状況であっても、当のご本人たちは、私たちの支援を必要と感じていないことがあります。誤解を招くところもあり表現が難しいのですが、“困っているであろうことに対し、ご本人たちは困っていない”のです。ご自身の空間でずっとやってきたやり方があり、上手に工夫しながら生活されています。なので、その方が必要だと感じた時に介入できるよう、まずは「顔見知り」になることを大切に、介護されていることに気づかれないよう支援すること、自尊心を傷つけないことを心掛けています。

野ざきの家に入職した頃は、利用者が体調不良になると不安でした。病院勤務の時と違い頻回に見に行けないからです。今考えると不安になること自体、看護師としてのアセスメントができていない、自信がない証拠だったと思います。体調に異変があっても、迅速に医療機関と連携しつつ、利用者に不安を感じさせないよう心身のケアを充実させることにより状態は改善し、結果「だいたい大丈夫」の経験を積み、これもまた語弊があるかもしれませんが、人間の身体は思ったより丈夫なことに気付かされ、人間の生きる力をあらためて実感しました。

最後にひとつ大切に心掛けていることはゆっくりと動き、話しやすい雰囲気を作ることです。利用者にとって我々は環境の一部であると思っています。加齢に伴い衰えていくのは自然の流れではありますが、ご本人の強さを信じ欲張らず「現状維持」を目標に。そして改善できることは積極的に支援し、利用者の望む生活につなげていきたいと思っています。

(看護師 常松雄太)



お誕生日は華やかに！



ひなまつりメニューを囲んで…行事も戻ってきました！

工房 時【就労移行支援・就労継続B型】

新年度に入り、工房時は就労移行支援事業を終了して、就労継続支援B型のみの事業所となりました。足掛け12年間で就職まで至った方もいらっしゃいましたが、長期的に安定した就職実績を上げるには至らず、事業を終了することになりました。少しシリアスな話になりますが、今回は事業運営のお話をさせていただこうと思います。

立ち上げ準備委員会に参加して色々な展望を描きながら、工房時を開設したことを思い出します。特に就労移行支援については、法人にとっても大きなチャレンジであり、新しい活動への期待や不安は、利用を希望される皆さんも職員一同も同じ気持ちだったと思います。あれからずいぶんと年月が経ちました…自分でも歳を重ねたものだなと痛感せずにはいられない今日この頃です。

利用者みなさんの日々の努力に加え、店舗「おもむく食堂」の接客等を活用した就労スキル向上のトレーニング、就労支援員による企業開拓の挨拶回りや見学・面接の同行、就職後の定着支援など、振り返ってみると非常に多岐にわたる業務を求められる事業でした。法人の理念にもあるように「やってみたい」一緒にトライする姿勢で長年取り組んできました。就職というテーマはやはり高いハードルであったと改めて実感していますが、それを乗り越えて就職を実現し、定着できた仲間を間近に見ることは、僕も、私も、チャレンジしたい！というみなさんの新しい目標や励みとなりました。私たちにとってもこれは大きな喜びであり、貴重な経験でした。

一方、事業運営の収入である給付費の算定が成果報酬型であることも事業を断念する一因でした。基本報酬が低く、就職者を出したら加算、平均工賃を上げたら加算、という形で増収となるため、実績を上げ続けないと運営費が増えないという組み立てです。結果の出ない努力は評価しない、といわれているような制度設計は私たちにとってとても厳しい（営利企業の論理としてはありうるのかもしれませんが）ものです。取得できる加算は申請していますが、工房時は開設以来、いわゆる赤字の状態が続いており、法人全体でそれを吸収するような形となってきたことも課題でした。現在は、おおぞら会の各事業所で作成した中期経営計画に基づき、工房時も単独での黒字化を目指して活動しています（昨年からはじめた休日開所も、増収となる企画です）。

自立支援法の施行から社会福祉法人制度改革を経て、長期的な法人・事業運営のために安定した運営収入の確保がますます求められています。地域みなさんに理解され、利用先として選ばれるために、これまで培ってきた工房時の良いところを残しながら財務状況の改善をはかる、というなかなか困難なミッションが目の前にあるという状況です。こうした時期に管理者を担っていることの重圧はありますが、皆さんの力をお借りして何とか乗り切りたいと思います。

（管理者 中野昭精）

★おもむく食堂もB型となり、変わらず営業しています！

ぜひおいしいうどんを食べに、お越し下さい！



アクティビティセンターはばたけ (生活介護事業)

年度が変わり3か月。桜からハナミズキ、今は元気にアジサイが中庭を明るくしてくれています。晴れ間に庭先で創作活動をしたり、体を動かす機会が増えてきました。草木の伸びるスピードもあがり、公園清掃の作業にもエンジンがかかり、汗を拭きつつ草刈りに出かけています。



恒例の野川ウォーク うれしいお弁当タイム!

新緑の季節には、恒例行事の1日ハイキングで野川沿いを歩きました。以前のように全員でという形ではありませんが、グループに分かれて、それぞれのペースに合わせてゲームやランチタイムを楽しんできました。

ウォーキング中のミッションでは「ピースサインみんなで繋げて星を作ろう!」などチームワークも大切にしながら、みんなで公園内の“くじら山”を目指し、登頂してきました。久々に外で仲間と食べるお弁当は格別!



団結の証!ピースの星!

天気にも恵まれ、はばたけに戻ってからゴール記念賞をもらい、後日一緒に行った仲間同士で壁新聞を作成し、思い出をみんなで共有しました。

さてそうすると、「りょうこうは?」「秋まつりは?」と次のイベントを期待する声がいろんなところであがっています!!皆さんの期待に応えられるよう、ただいま準備中…にぎやかな行事のある日常を思い出しつつ、職員もがんばります!



いろんな材料でチャレンジ~季節に合わせた創作作品

はばたけといえば、表現活動。自由を形にして、さまざまな創作作品をつくっています。今年こそは、秋まつりを復活し、皆さんにお披露目できますように!
(管理者 柴田信)



思うままに描いた絵を、気球やこいのぼりの鱗、梅雨空を彩るカラフルな雲に…

サポートネットあすは

《移動支援・同行援護・行動援護・居宅介護事業》

「サポートネットあすは」は障害のあるの方の外出支援を行うガイドヘルパーを派遣しています。また、コロナ禍では中止していましたが、昨年度より、グループでの外出も少人数で再開し、上野公園、ゆうえんち、ボーリング、羽田空港、葛西臨海公園、柴又の帝釈天など、グループ企画を実施することができました。

ひとりでの外出は躊躇してしまう、みんなのお出かけが楽しいという方は、グループ企画の時だけ移動支援サービスを使うという方もいらっしゃいます。コロナ禍では中止をしていたので、そういった方々の中には3年ぶりのサービス利用という方もいて、ここ3年で入職した新しい職員にとっては初めてお会いするという状況もありました。平日はお勤めをされている利用者の皆さんたちが、カラオケをしたり、ボーリングをしたり、遊園地のアトラクションや外食を楽しまれる姿に間近で接していると、仕事とはいえ、私ども職員・ヘルパーも、心が洗われる思いです。役得とはこのことですね。

「サポートネットあすは」は、利用者・ヘルパー・外出先で出会う人々・地域の方…と沢山の人が関わり成り立っている事業所です。これからも、それぞれの立場や思いを大切にしながら、地域に貢献できる事業所を目指していきたくて考えています。

(管理者 柳井 美和子)



ストライクで平日の疲れも吹き飛びます！

* お出かけなどのサポートしてくれる方を募集しています *

障がいのある方の支援に関心のある方、何か自分を活かせることを探している方、都合に合わせて時間を選んで仕事をしたい方、ぜひヘルパーのお仕事をしてみませんか？

3日間の講習を受けることで資格を取得でき、事業所に登録することで、ヘルパーとして活動することができます。事業所が利用者の希望する日時と派遣できるヘルパーを調整しますので、空いた時間や自分の生活に合わせてお仕事ができます。

興味のある方は、「サポートネットあすは」までお問い合わせください！

おおぞら会新任研修を開催しました 🍌🌂🍌🌂🍌🌂🍌🌂🍌🌂🍌🌂

これまで、この紙面ではあまりお伝えしてこなかったのですが、おおぞら会では年に2回その期間に新しく入職した職員を対象に「新任研修」を行っています。(今回は5名が参加しました)

おおぞら会の理念や、人に携わる仕事として法人職員に求めることをお話しし、それぞれの事業所を見学し、また同じ時期に入職した者同士、それぞれの役割は違えど、障害のある方や高齢者の地域生活を支える仲間として高め合うべく座談会を行う1日を通したプログラムとなります。

人手不足が嘆かれる昨今、福祉の現場はその代表みたいなところがありますが、このようにご縁があって仲間となった職員にやりがいを感じ長く勤めてもらえるよう、そして、まだ知らないという方にもこの仕事の魅力を伝えていく必要があると感じます。法人としての使命であり、これからの時代において大きな課題です。



おおぞら会後援会ニュース



新型コロナウイルスが5類となりましたが、引き続き感染拡大の状況は変わっておりません。後援会会員の皆様もくれぐれもご自愛下さい。この困難に立ち向かうべく、おおぞら会関係者の皆様にご協力をいただきながら対応してまいります。今後とも、後援会活動にお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会

会長 吉野 壽夫

2022年度 おおぞら会後援会 資金収支報告書

単位：円

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|------------|------------------|----------------|-------|---------------|------------------|------------------|--------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 予算比 | 科目 | 予算額 | 決算額 | 予算比 |
| 会費 | 880,000 | 570,000 | 64.8% | 事務費 | 40,000 | 19,387 | 48.5% |
| 個人 | 850,000 | 548,000 | 64.5% | 印刷製本費 | 5,000 | 0 | |
| 団体 | 30,000 | 22,000 | 73.3% | 通信運搬費 | 10,000 | 0 | 0.0% |
| 寄付金 | 120,000 | 36,000 | 30.0% | 手数料 | 20,000 | 19,387 | 96.9% |
| 個人 | 100,000 | 26,000 | 26.0% | 雑費 | 5,000 | 0 | 0.0% |
| 団体 | 20,000 | 10,000 | 50.0% | 寄付金支出 | 500,000 | 500,000 | 100.0% |
| 収入計 | 1,000,000 | 606,000 | 60.6% | 法人へ | 500,000 | 500,000 | 100.0% |
| | | | | 支出計 | 540,000 | 519,387 | 96.2% |
| | | | | 当期収支差額 | 460,000 | 86,613 | 18.8% |
| | | | | 前期繰越金 | 1,519,145 | 1,519,145 | 100.0% |
| | | | | 次期繰越金額 | 1,979,145 | 1,605,758 | 81.1% |

同 貸借対照表

| | | | |
|----------|------------------|----------|------------------|
| 現金 | 222,274 | 仮受金 | 286,000 |
| 預金1 | 838,230 | | |
| 預金2 | 831,254 | | |
| 仮払金 | 0 | 次期繰越金 | 1,605,758 |
| 計 | 1,891,758 | 計 | 1,891,758 |

会費・ご寄付 ありがとうございます

(令和5年1月1日～令和5年5月31日集約分)

★会費のご納入(敬称略)

個人12名の方から、会費のご納入をいただきました。ありがとうございます。

★後援会へご寄附(敬称略)

団体1社より後援会へご寄附をいただきました。ありがとうございます。

★法人・各事業所へご寄附(敬称略)

団体1社、個人8名より、ご寄附をいただきました。ありがとうございます。

※加入は任意です。

年会費は法人運営を応援し、法人の活動を地域に広めるため大切に使用させていただきます。はばただよりの発送に際し、振込用紙を同封させていただいております。

(入会・更新済みの場合も同封しておりますことをご了承ください)

後援会へご入会・ご更新をお願いいたします

年会費 個人…2,000円 団体…10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか

下記の口座にお振込みください

郵便口座 00160-0-39163

口座名義： 社会福祉法人おおぞら会後援会

information

夏のごあいさつに…

おうち時間のおともに…

工房時のギフト



～うどん麺～

写真：ぶっかけうどん(おもむく食堂)

※ギフト商品は生うどん麺のみのパックです



～お菓子～

写真：アマンドショコラ

ご予算・ご要望に応じて
さまざまな組み合わせが可能です

お気軽にお問合せください!



<https://toki.oozora.or.jp>
twitter… @kouboutoki

〒181-0014 三鷹市野崎2-6-41
電話 0422-30-5571 FAX 0422-30-5572



社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|---|----------------|------------------|
| ・ アクティビティセンターはばたけ (生活介護事業) | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 (就労移行事業・就労継続B型) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野ざきの家 (小規模多機能型居宅介護事業) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは (移動支援[居宅介護]事業) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids (放課後等デイサービス) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ つなぐなかまの家・さくらハイツ・つむぎの家 (共同生活援助) | | tel 0422-26-1320 |

春先から少し影を潜めていた感染症が、また身近で存在感を示している。6月はそのほとんどを対応に追われ、施設もてんやわんやであった。政府の方針が変わったとて、世の中が3年前に戻りつつあるとて、集団の場でひとたび感染症が発生すれば、収束するまでその対応は一緒である…とあらためて思い知った。移り広がれば「もう少し良い手立てはなかったか?」と悔いるところもあるが、終わりが無いものであるとも思うから、この状況を慌てず淡々と受け入れ共存していくことも必要だ。

ふと気がつけば紫陽花が色とりどりに咲き誇っている。友人から毎年送られてくる山形のさくらんぼも届いた。いつの間にか季節が夏に近づいている。さあ、深呼吸をしてリセットしていこう。(いりくらあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 【頒価 50円】

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者:入倉暁子